

## マレーシア サラワク大学における生命科学gPBL

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2022年08月02日 ～2022年08月11日	マレーシア	サラワク大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学科、システム理工学専攻</li> <li>・学部2年生、学部4年生、修士1年生</li> </ul>	(芝浦工業大学) 学生9名、学生バイト1名、 教員7名 (サラワク大学) 学生11名	福井 浩二(生命科学科)、アズハム ズルカルナイン(生命科学科)、矢嶋 伊知朗(生命科学科)、布施 博之(生命科学科)、趙阪部 奈緒美(生命科学科)、須原 義智(生命科学科)、廣田 佳久(生命科学科)



図1 クチン空港でのゲート

Na学生は4つのグループに分かれ、現地UNIMASの学生と環境をテーマにPBLを実施した。主なテーマは、魚に含まれる重金属の検出や飲料水中に含まれるマイクロプラスチックの測定であった。はじめのうちは緊張していた学生もプログラムが経過するにつれてUNIMAS学生と英語で一生涯課題に取り組んでいた。中間発表と最終発表を英語で行い、結果を報告した。前日には夜遅くまで資料を作ったり、発表練習をしていた。休日には文化交流もあり、コロナ禍でなかなか国際交流ができなかった参加者にとってはいい経験となったようである。初めての海外に渡航する学生もあり、いい思い出となったようであった。3年ぶりの開催であったが、UNIMAS側のホスピタリティが素晴らしかった。今後の継続して本プログラムを実施したい。



図2 ラボでの実験計画



図3 中間発表会



図4 キャンパスのビル内の中庭